

## 【高校生の部】アクション・レポート部門 未来賞

### 「イノベーションすなわち新しい満足」

岡山理科大学附属高等学校 2年 <sup>いがらし ひろむ</sup> 五十嵐 寛武

今回のコンクールで新設された「アクション・レポート部門」に、僕のチャレンジを応募します。カーボンニュートラルには金と手間がかかることを実感しつつ、どうすれば生活のなかに定着し未来が開けるのか考えた記録です。

まずは、比較的ハードルが低そうに見える「家電製品を選ぶ」に挑戦です。実は、高校生は自立していないので基本的に家電は買いません。すなわちハードルは低くありません。僕もご多分に漏れず、親に「家電製品を買う予定ある?」と聞いたところ「ない」という返事で、ほぼ終了です。コンクールのためにおねだりして無理に家電を買うことはしませんでした。それは資源の無駄、本末転倒、分不相応だと思ったからです。

作戦を変更し、親に「仮に、家電を買うとしたら脱炭素に配慮した製品を買う?」という質問をしました。すると、「安くて良いと思う方を買う。身の丈にあったものしか買えない。例えば、今使っている照明が壊れたら順次LEDにする。LEDは段々と安くなる。他の家電も同様。エアコンはこないだ買ったでしょ。」という返事でした。そこで新しいエアコン「白くまくん」の取扱説明書を見てみることにしました。すると、「eco機能」なんてものがあるではないですか。しかも「AIこれっきり」ボタンを押すだけで機能してしまう優れものです。流石は日立のブランド商品です。早速、この機能の有用性を家族に熱弁し、カーボンニュートラルに関する新しい満足感を共有することができたのです。

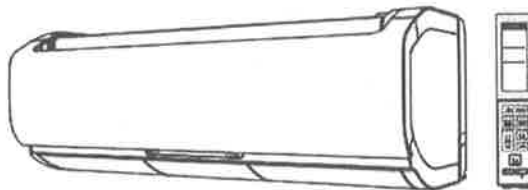
# HITACHI

## 取扱説明書

保証書・据付説明書別添付

### 日立ルームエアコン

家庭用



## 白くまくん

日立ルームエアコン

オールエース ジュータイー エル イー  
RAS-JT56L2E9

室外機

モデルナンバー  
RAC-JT56L2E9

リモコン

モデルナンバー  
RAR-9T5

設定/取り消しかた

運転中に、リモコンを室内機に向けて

**AIこれっきり** を押す

室内機への受信音:「ピッ」

そのほかにもできること

18~22

eco機能

18

次のチャレンジは「近くでとれたものや国産、旬の食物を選ぶ」です。今度こそハードルが低めであると信じ、スーパーマーケットへ出発です。まず、CO2を沢山使う「お肉」の代替品を検討します。さらに輸送にかかるCO2を削減する意味で、原材料の生産地と加工所の住所もチェックです。

まずは「畑のお肉」大豆製品の定番「豆腐」。あらためてみると豆腐売場は以外と広いです。やっと見つけた国産大豆使用の豆腐加工所は、遠目の京都府でした。もっと頑張って探さなければなりません。限なく再確認してみると、一番隅っこに岡山県倉敷市で作られた豆腐を発見できました。高級品です。ありがたく冷奴でいただきました。美味しいけれど普通の豆腐です。大豆の産地の違いで、感動的な味の差はでないようです。安心感とステータスにお金をかけられる人は少数派なので、売場の隅に置かれてしまうのだと思います。国産にこだわった企業努力は並大抵ではないと思います。ニッチな市場を狙ったのであれ、イノベーションの戦略であれ、挑戦していると思います。企業努力、愛国心、そしてカーボンニュートラル。味だけでなく「感動」で満足する顧客はいるはずです。ストーリーを見える化して「感動」をスパイスにすると面白そうだと思います。

つぎは大好きな「納豆」。岡山には美味しい蒜山納豆があるから楽勝、と思いきや「アメリカ産大豆」の表示です。途方に暮れる僕の前に、祖父と孫の組合せのお客が現れました。祖父「お母さんがいつも買っているのはどれかな。」孫「国産大豆を使ったこれだよ。」祖父「それを買おう」という嘘みたいに奇跡的な展開がおきたのです。早速僕はチェックします。国産大豆、販売者はお隣の広島県、これなら合格と判断しカゴの中へ入れました。気が緩んだのか、製造者が和歌山県であることは見落とし、帰宅してから気づきました。世の中に完璧を求めるより、現実的にベストな選択を行ったことに満足すべきかもしれません。

高校生は大豆製品だけでは空腹を満たせません。地元近くで捕れた魚を探します。その結果、兵庫県産のテンジクダイを購入しました。リーズナブルですが、50匹以上捌かなければなりません。卵を持っている個体が多く、資源として考えると別の時期が適切なのかもしれません。大切に命をいただきます。瀬戸内の小魚では焼魚が無理なので、唐揚げにします。とても手間がかかり、油もはねて怖い思いもしましたが、妹も喜んで食べてくれました。カーボンニュートラルは手間がかかるけれど、食べる人の満足する顔を想像すれば頑張って料理する気になれます。

最後は「旬のもの」。岡山県産の果物は驚くほど高価で、遠くの南国の果物の方が断然安いのです。社会科で習う「外国の人件費が安い」とか「日本では人口減でも世界的には人口増」に納得です。結局、おつとめ品で500円の小さな葡萄(岡山県産)を購入しました。味が濃くて美味しかったです。「旬のもの」がお高い場合は、おつとめ品が正解だと思います。贅沢品を割安で食べて、廃棄ロスも減らしてカーボンニュートラルに貢献できる満足感を得ることができます。



カーボンニュートラルには金と手間がかかります。しかし、できることから始めることはできます。アクションをおこせば現実が見えてきます。そのなかに、楽しみや満足を見出して、まわりとコミュニケーションをとり続けければ未来が開けてくると思います。ピーター・F・ドラッカーのいう「イノベーションすなわち新しい満足」を生み出すことは、未成年でも個人でも身近なところでも可能なのです。